



# 鯉淵学園同窓会

# 第95号 同窓会報

令和4年7月31日

発行：鯉淵学園同窓会

〒319-0323

茨城県水戸市鯉淵町 5965

TEL : 029-259-2811

FAX : 029-259-6965

<http://koiibuchi.main.jp/>

メールアドレス: dousou@mail.koiibuchi.ac.jp



鯉淵学園農産物直売所「農の詩」全景 うた 学園創立 60 周年記念事業による建設（同窓生寄付 平成 17 年 8 月 31 日完工）

## 同窓会長あいさつ



西村 勝夫  
(22期卒)

の検討状況を見極めて、強固な財政基盤構築要請並びに支援を実施してまいります。

### 学生募集への協力

学園の存続運営は学生の定数確保にかかりております。各大学とも少子化等の影響を受け、学生確保が喫緊の課題です。

かつて鯉淵学園の入学生は、全国各地から親子、兄弟、姉妹、従兄弟、従姉妹等が入学する例が数多く見られ、鯉淵学園の実地教育や施設環境等に大きな魅力があつた証でした。全国に卒業生を有する鯉淵学園は、県単位の大学校とは違い学生募集の範囲が広く、同窓生一人一人の協力で、学生確保につなげていけるようご協力を切にお願いいたします。

学園と連携・協力して、全国拠点説明会等の実施を都道府県各支部長と具体化してまいりたいと考えております。

令和元年11月に第34回同窓会大会を東京で開催して以来、新型コロナウイルスの感染拡大防止から新役員体制による活動自粛を余儀なくされ、全国会員各位には大変ご迷惑をおかけしてまいりました。

事務局活動も大巾に制限され、常任委員会も開けず、本来は昨年の11月に開催する予定でした第35回定期大会も1年延期し、本年11月に開催する事態となりました。

### 学園運営への支援

令和元年にスタートした産学連携による学園運営は4年目を迎えましたが、経営参画企業の経営状況により、平成31年1月に締結した経営参画確認書の再構築について、法人の理事会並びに評議員会において的確な方向づけが求められております。

同窓会は全国各界で活躍されている多くの卒業生の期待に応えるために、今後

### 会費納入のお願い

これまで同窓会は学園の存続・再建に関わる活動や、創立記念事業等のために多額の募金や寄付等のお願いをしてまいりました。お陰様でそれぞれ目的は成遂げられましたが、長年に亘る支援活動の継続により、蓄積してきた財源も枯渇状態になり、円滑な日常活動に困難をきたしております。

新型コロナウイルス禍で大変厳しい経済情勢下と存じますが、同窓会運営財源として、永年会費の優先納入をお願いいたします。ご無理な場合は、年会費納入にご協力ををお願いいたします。

# 学園改革の現状について



副学園長  
長谷川量平

2019年1月30日付のイセグループが本校の経営に参画する旨の確認書の解除通知が5月2日に届きました。同窓生の皆様におかれましては、今回的一件が、本校の運営に大きな影響を及ぼすと御心配の方も多いと思いますが、本校とイセグループの間には債権債務があるわけではなく、今回の会社更生に伴う本校の事業に対する影響はありません。

## ・イセ食品と締結した経営参画確認書の履行継続有無と今後の運営体制について

本年3月11日には、イセ食品とイセ株式会社は会社更生法手続きに入りました。負債総額453億円にのぼり、メディアでも大きく取り上げられました。4月22日には、イセ株式会社の会社更生手続き1社に対してのみ抗告をし、現在係争中です。

本校の理事長である伊勢彦信は、イ

## ・「公益財団法人鯉淵学園」に名称変更した経緯

本年4月1日より、「公益財団法人農民教育協会」を改め、「公益財団法人鯉淵学園」といたしました。

ご存知のように「農民教育協会」は昭和23年に設立され、鯉淵学園の運営を今日まで行つてきました。

設立当初はまさに農業・農村のリードーを養成する農民の教育をおこなつてきました。

しかししながら、時代の変遷を経て、『農民教育』という言葉に対するイメージ

ジが少々固く、学生募集時に影響があるのではないかとの懸念から冒頭の「公益財団法人鯉淵学園」としました。

そのため、本校の正式名称は「公益財団法人鯉淵学園 鯉淵学園農業栄養専門学校」と鯉淵学園が2回出てくるのですが、他大学においても同様な学校が多いので問題なしといたしました。

## ・今年度教育事業の主な取り組み骨子

本年3月25日に、文部科学省よりアグリビジネス科が「職業実践専門課程」として認定されました。これにより昨年認定された食品栄養科と合わせて、企業と連携し実学を学べる学校として国からお墨付きをもらつたことになります。

アグリビジネス科においては、ドローン教育やICT農業教育をさらに先鋭化し先進的な農業教育を開拓していく予定です。

食品栄養科においては、以前より行つてゐるリメディアル・キャリア教育、アクティブラーニングなどをさらに先鋭化し、よりよい教育の提供に努めています。

鯉淵学園は変わりつつありますが、諸先輩方の築き上げた歴史と伝統を守りつつ、天下に冠たる「鯉淵学園」としてありますので、なお一層の努力を続けています。

# 在学生の出身現況と学生募集の取り組み



入試支援室長  
前嶋 智  
(アグリビジネス科副科長)

## 【在学生の出身現況】

さる4月5日に入学した令和4年度新入生も入学3ヶ月ほどが経ち、落ち着いた様子で勉学に励んでいます。今年度の入学者の出身地は、北海道・栃木県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・広島県・鹿児島県・沖縄県と日本各地にわたりています。また、海外からの入学生もアグリビジネス科畜産コースに迎え入れております。

アグリビジネス科は昨年度に比較して、茨城県内出身者の比率がやや高くなつた半面、食品栄養科では県外からの入学者が複数あるなど、入学傾向に若干の変動がみられました。また、今年度は食品栄養科を中心に大学を卒業した社会人入学生が増加しております。これは、昨年度(令和3年10月1日)本校食品栄養科が専門実践教育訓練講座指定を受けたことが影響しているものと思われます。専門実践教育訓練講座は、社会人のキャリア形成を支援する教育訓練給付制度において、一定の

高井章光弁護士がリーダーとなり、新しいスタートを切るべく準備をしておりまます。本校との関係については、

現在、イセグループは管財人である

高井章光弁護士がリーダーとなり、新

しいスタートを切るべく準備をして

おります。本校との関係については、

条件を満たす方が受講した場合に、経費の一部がハローワークより支援される対象となるものです。

### 【学生募集の取り組み】

前述のとおり今年度も幅広い入学生を迎えたとはいえ、両学科とも募集定員を充足するには至らず、引き続き厳しい状況であります。

次年度の入学者増加に向けて、令和3年度までの戦略室を入試支援室と改組し、学生募集により力を入れた体制を整えております。そのうえで体験入学イベントの実施、遠隔地からの来校者への交通費補助、ホームページやSNSを活用した情報発信の強化、高等学校進路関係者へのアプローチの工夫など、新たな取り組みを進めております。

少子化の進行は、大学・専門学校にとって学生募集に厳しい状況と言えますが、高校生にとっては大学等をしつかり選べる状況といえます。オーピンキャンパスや学校見学会では年々真剣な参加者が増えているように感じられます。

今後も農業・栄養を志す人たちへの認知を高めると共に、そのような方々から選ばれる学校となるように魅力の発信・満足度の高いイベントの開催などに努めてまいります。引き続き暖かいご支援をよろしくお願ひいたします。

高田良三  
アグリビジネス科長



具体的な就職先名  
農業法人関係では、あかい菜園（いわき市）、ふるさと工房（笠間市）、ベルファーム（つくば市）、HATAKEカンパニー（つくば市）、村上農園（笠間市）、弁天牧場（千葉県）、寺島牧場（千葉県香取市）でした。  
協同組合関係ではJAひたち（石岡市）、JA常陸（笠間市）、鯉淵学園、千葉県農業共済組合（平塚市）。

農業関係民間企業では、井坂商店（小美玉市）、永農塾マルー（山梨市）、小田喜商店（笠間市）、KURKKU FIELDS（千葉市）、フリーデン（平塚市）でした。  
なお、国際コースの卒業生26名は全員がイセ食品グループに就職しました。

進学先はタキイ園芸農場付属専門学校、鯉淵学園研究科でした。  
その他は、エイジエック（人材派遣 宇都宮市）、鯉淵学園主事補でした。

就職を希望しなかった2名を除くと就職希望者は全員が就職できることになり、就職率は100%と大変好調でした。

本学園の就職先の特徴として、自営（後継者）や農業関連組合など、そのほとんどが農業に関係しています。人数はやや減少しているものの、本学園の教育目的に十分に合致しています。ただし、最近の傾向として農地所的確法人への就農よりも貢献できることが多くなっています。

## 卒業生の最近の就職動向について

野口貴彦  
食品栄養科長



食品栄養科長の野口と申します。日頃から卒業生の皆様には本科教育についてご理解とご支援を賜り感謝しております。

この2年間は、新型コロナウイルス感染症の拡大により臨時休業、リモート授業、そして校内での感染予防対策など様々な取り組みに翻弄され、教育現場は大変な状況となりました。その様な状況でも学生はしっかりと学習に取り組み卒業し、多くが栄養士として就職できました。

ここでは、直近の就職状況について報告させていただきます。令和3年度は、20名の学生を無事卒業させることができました（令和4年3月卒業）。就職が決まったのは20名で、就職率100%を達成できました（栄養士就職率は80%）。ここ数年の就職率は、常に90%以上を維持できています。就職内定率も135%（卒業生20名における）に達し、複数の内定を得た学生もいました。また、令和3年度卒業生に対する栄養士求人件数は、延べ数で155件となり、定員（40名）の3.9倍に達しています。コロナ禍で求人件数も若干下がりましたが、それでも求人件数は十分で就職率も高いことから、本科（2年制栄養士養成課程）卒業生への社会からのニーズの高さを実感しています。

就職先としては、給食関連企業（45%）、社会福祉法人等（30%）、病院（5%）、その他（20%）で、ここ数年の傾向としては、給食関連企業への就職が多くなっています。社会人となつて厳しいことも多々あると思いますが、卒業生にはそれぞれの給食施設で、本科で学んだ知識と技術をしっかりと活用し、周囲から認められる栄養士になつて欲しいと思います。

最後に我々本科教職員も社会で認められる栄養士の養成を目指し、これからも日々教育・指導に取り組んで行きたいと思います。卒業生の皆様にも今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

# 地域を拓く鯉学卒業生の 全国の仲間達

協同で地域と農業を守る集落営農（農）南福地ファームの取り組み



代表理事組合長  
牛山喜文  
(23期卒)

農事組合法人南福地ファーム（以下法人という）は、長野県伊那市内の南福地集落を区域とし、高齢化や農業の後継者不足から衰退しつつある我が故郷を、協同の力で復活させ、次代に引き継ごうと立ち上げ、11年目を迎えました。法人は、集落内3戸の専業農家を除く全戸の100戸が加入し、集落内水田の約半分の30ヘクタールを農地中間管理機構を通じて10年契約で賃借しています。栽培品目は、水稻17ヘクタール、小麦8ヘクタールを中心に行なっています。

各作業は専従者ではなく、登録組合員40人位で実施しています。経営収支は一度も赤字になりませんでしたが、このところの米価の値下がりが大きく響いております。役員会の構成は、理事11名、監



ブロックリーフの定植作業 後方は中央アルプス

事2名で毎月開催し、意志の疎通を図るべくノミニケーションは欠かせません。鯉淵学園本科生の農業体験研修は、平成27年より3カ年延べ60人受け入れました。農業機械の取り扱いや、野菜畑の草取り作業でしたら、よく頑張っていました。また、逆に当法人役員全員で鯉淵学園を訪問し、施設見学や教育方針等学び、学園と交流を深めました。当法人の特徴は何と言つてもまともりの良さで、「新しいことにチャレンジ」「賑やかで仲の良い

供たちがずっと暮らせる地域」こんな話をし、そして「農業者がお互いを信頼し、協力しなければ発展しない」との鞍田純先生の教えを少しでも実践していく考えです。

八郎潟干拓地「大潟村」に入植して47年 村づくり」「女性が元気な組織」「子供たちがずっと暮らせる地域」こんな話をし、そして「農業者がお互いを信頼し、協力しなければ発展しない」との鞍田純先生の教えを少しでも実践していく考え方です。

八郎潟干拓地「大潟村」に入植して47年



秋田県大潟村  
黒瀬喜多  
(20期卒)

卒園後7、8年ほど滋賀県の生活改良普及員として仕事を愉しんでいたある日、職場結婚した主人が「八郎潟新農村建設事業に行こうか」と突然言い出しました。

「八郎潟新農村建設事業」とは、世界銀行の借款による干拓工事で生まれる広大な大地に、零細な日本農業や農村を革新する起爆剤にするために近代的なモデル農村を創るという農林省の一大プロジェクトです。

この事業に参画するため、北海道から沖縄まで全国各地から集

まつた589戸の入植者は、国など公的機関は元より、農機業界を始め民間の各分野の人々からの援助も得て、大規模稻作経営のノウハウを構築してきました。

八郎潟モデル農村には、他の産業従事者に劣らない「高所得」の確保と共に、その当時日本農村に色濃く残っていた「排他封地」、「隣接市町村への帰属と定めた地方自治法をわざわざ改正して、独立した自治体・大潟村が創設されました。

そして、各地から多様な価値観を持った人々が集まつたお陰で、それぞれの個性を認め合え、自尊心溢れる民主的なコミュニティーが長年かけてほぼ構築できたように思います。

日本海沿いに800km余り北上してこの地に移住して半世紀近く、当初の省力化・コスト低減・大量販売の営農は、30年ほど前に直販というニッチ方式へと業態の大転換を行い、次男への経営委譲も終えました。

次代を担う人達には常に時代の趨勢を見据え、社会貢献できる自立した農業を開拓して欲しいと思っています。

## 「一人の百歩より百人の 一歩」のまちづくり推進



岩手県金ヶ崎町  
高橋由一  
(22期卒)



「一人の百歩より百人の  
一歩」のまちづくり推進

深刻さを増しながら、大きく変化してまいりました。

かかる事態に対し、変化への対応力を高めつつ、持続可能な自治体を目指して町民の皆様と共に歩み続けることが出来ましたのも、皆様のご理解とご支援の賜物であります。

私は去る3月18日に町長を退任いたしました。

平成18年3月に就任して、4期16年間、皆様の暖かいご厚情とご指導・お力をいただきながら、任期を全うすることが出来ましたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

昭和の合併で新金ヶ崎町が昭和30年に誕生し、平成の合併では自立を選択しました。先人が築きあげてきた金ヶ崎の歴史と文化、誇りと成長力、町民憲章の理念を大事に、「一人の百歩より百人の一歩」の町民主役のまちづくりを進めてまいりました。

少子高齢化と人口減少問題、多様で広範な行政ニーズへの対応、行財政改革、トップランナー方式と自治体間競争、自己責任と自己完結、予想を超える自然災害の発生とリスク管理等に加え、新型コロナ感染対策の緊急対応を含め、自治体を取り巻く環境は厳しさとあつという間の30年。無我夢中



茨城県鉢田市  
大久保三男 (36期卒)  
大久保兵子 (36期卒)

## 「ひと・はな・ゆめ 暮らしに花を心に夢を」

（町長退任挨拶文の抜粋から同窓会事務局編集）

そして、多くの企業・事業所・自治体・関係団体等関係機関のご支援とご指導により今日を迎えることが出来ました。ここに改めて皆様に感謝を申し上げる次第であります。

みんなと同じことをやつしていくは駄目。自分にしか出来ない自分にしか作ることの出来ないオリジナルのものを作っていくことが強みになります。

良いものを作れば必ず売れます。自分の個性にあつたものを作り、消費者に喜んでもらいたい。消費者が満足する花を作ることによって収入は後から自然とついてきます。そういう花生産をすることによって、自分も満足感を得られるのだと思います。

自分たちの作った花がどんな人に届き、どんなふうに育ててくれるので?イメージしながら出荷しています。

お陰様で毎年評価され、いろいろ賞に輝いています。今年はボインセチアで茨城県で最高の県知

の30年。貯金0、借金からのスタートでしたが信じて頑張ってきました。

春作は紫陽花、秋作はポインセチアの二つを主体にして家族経営でやっています。紫陽花は親株から枝を切り、差し穂を作り、自分で挿して苗を作ります。ポインセチアは育苗者から苗を購入し、鉢に植え込みます。その年その年で気象状況も違うので同じようにはいきません。その時の状態を観て消毒をしたり、活力を与えたりしています。



紫陽花の出荷作業

事賞を頂きました。本当に有り難く名譽なことです。

職業に、『農業』と自信を持つて胸を張つて言えるように、しっかりととした経営と夢のある仕事にしていきたいと思います。身体(体力)が続く限り、楽しみながら又研究心を忘れず、笑顔で花作りを続けていけたら幸福かなあと思います。信じて継続していれば必ず実ります。そう信じて頑張ってきました。たんだから・・・。

一日一日新しい発見があります。自分の仕事に誇りを持ち、これからも頑張っていきます。どうぞ大久保花園をよろしくお願ひします。

# 地域を拓く鯉渕学卒業生の 全国仲間達

つくり継がれ、永く愛される  
「自園自醸ワイン紫波」



株式会社紫波フルーツパーク  
取締役副社長

竹原純悦 (24期卒)  
(夫人の美知子さんも24期卒)

燃料がなく、売店のワインが1本も売れない日が続いたので、東京銀座の岩手県アンテナショップで販売会を開き、開店前から多くの方々が並んで待っていて高いワインから買つていただいた光景が未だに忘れられません。私もJA職員だったので、関東以南のJAにワイン購入のお願いをしたところ、ファックスでの注文が続々と届き、感謝の気持ちで涙するほどでした。

当社のワインは、「自園自醸ワイン紫波」で売り出しており、紫波町産ブドウを100%使用し、ワイン研究専用品種ブドウのみにこだわって醸造していますので、全国でも数少ないワイナリーです。

ワインは、ポリフェノールが含まれており、フランスではボケ防止になることが実証されていますので、食事を楽しみながらワイングラスで乾杯してはどうでしょうか。

是非、「紫波ワイン」をネットで検索し、

コロナ禍で大変な思いをしています

窓生の皆様方のご協力をお願いいたします。

J Aいわて中央に勤務した後、JAシンセラの常務取締役を3年間勤め、60歳になつてから紫波町第三セクターの取締役になり、社長が町長なので経営者として頑張っています。

当初、土地建物は町のもの、固定資産税も減価償却費もないし、運営費の補助もあり、楽に運営出来るだらうと考えて受諾しました。蓋を開けてみれば3期連続の赤字で、JAからの借入金が限度額の上限で、利払い期には銀行から借り入れて返済するという大変な会社でした。何とか、社員と一緒につて改善に取り組み、引き継いでから2期連続の赤字の後は今期で11期連続の黒字です。その間、東日本大震災では車の



ワインショップ

短歌集「心の風景」



兵庫県川西市  
普光江文江  
(12期卒)

ら五百首程選んでみたが、正直自分で感心する歌は少ない。歌は正直で鏡にうつる自分を見ているようで恥かしい。

思えば、令和二年、世界中が新型コロナウイルスの流行で、苦難の日々を送ることになつた。多くの人が不安や不遇を耐えしのび、かつてない懊惱の日々に明け暮れているのにかてて加えて、地震や台風など、又忌まわしい戦争も起きて、気の休まることがない。まだ終着駅も見えてこない昨今、何かしら心の落ち着くところが欲しい。こんな拙ない歌集でも、何かひとつ心の灯し火になるものを拾つていただけたらと願う次第である。

私は十二期で、本来なら卒業後、農村生活改善普及員として、奉職をする筈であったが、当時は就職難で東京都の都民劇場事務局に就職することになつた。一九三六年、退職してからは、主婦専業となり、二人の娘と孫四人を育て今に到っている。

折角の鯉渕での研鑽を生かすことは出来なかつたが、今でも土の精神は健在で、花や野菜を育てている。

さて、私は十六歳の頃から短歌を作つていて、「心の風景」は、第四歌集となる。

夫が平成二十五年に他界しての

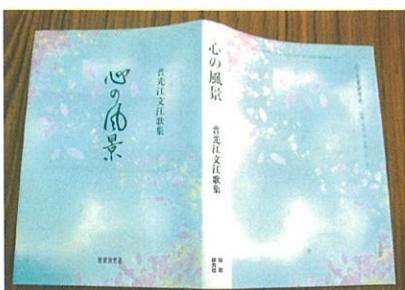
ち令和元年十二月始め、思ひもかけぬ人生的の岐路に立たされた。

八十三歳になつて初めて受けたマ

ンモグラフィーで乳癌の宣告を受けた。幸い第一ステージと言うことで、五日間の入院手術にてこ

なきを得た。

助けられた生命にあれば、何かしら自分に課せられた役目もあると考へ、歌集を編むことにした。おおむね六年間の作品の中か



第四歌集「心の風景」  
令和3年7月1日発行

文江

## 鯉淵学園教育研究報告のご紹介

栄養士養成50年にあたり  
随想を寄稿しました



食品栄養科副科長  
浅津竜子  
(47期卒)



最近の教育研究報告書

同窓生の皆さま方におかげまして  
はお元気でお過ごしのことと思いま  
す。この度、鯉淵学園教育研究報告第  
32号（令和4年3月発行）に「鯉淵  
50年を振り返るにあたり、西  
村典夫先生がおまとめになつ  
た『鯉淵学園五十年史』（平成  
8年10月1日発行）を参考に  
しながら、学務的な資料の確  
認や卒業生への聞き取りを行  
い、何とか書き上げることがで  
きました。随想では、栄養士  
養成課程の前身である「農村  
生活科」も含め、図の通り卒業  
生数をまとめて示しました。令  
和3年度卒業生を含めると、栄  
養士養成課程の卒業生総数は  
1,255人となりました。私は  
はこの図の真ん中頃の卒業生で  
す。糺余曲折を経て今があり、各年  
代の先生方の奮闘と時代背景やその  
当時の学生の気質も様々、と多くの  
事を想像しながらの執筆でした。

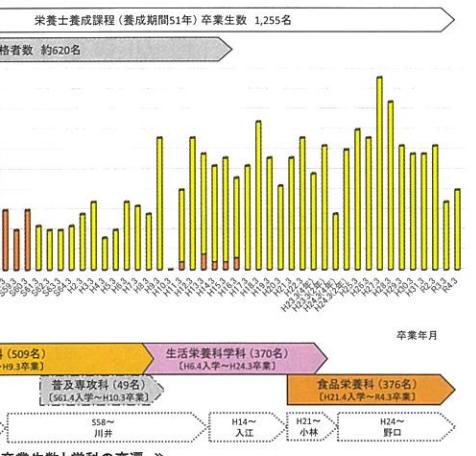
今回は、栄養士養成教育に関して  
のみを記しましたが、卒業生の皆さん  
にとつての思い出は学生寮での生  
活や自治会活動の方が印象深いので  
す。

はないかと推察します。この学生寮  
や自治会活動についての執筆は、次  
回に取り組めばと考えています。  
思い出は卒業生の皆さんの中に  
たくさんあると思います。私の随想  
をご一読いただき、その感想と共に、  
思い出話などもお寄せいただけます  
と幸いです。

学園における栄養士養成課程設  
置50年の軌跡と次の50年に向け  
て」と題して随想を寄稿しまし  
た。本校ホームページでも確認  
できますので、どうぞご覧くだ  
さい（公式ホームページでの掲  
載場所は、上段「本校について」  
↓「教育研究報告」に入ると閱  
覧できます）。

50年を振り返るにあたり、西  
村典夫先生がおまとめになつ  
た『鯉淵学園五十年史』（平成  
8年10月1日発行）を参考に  
しながら、学務的な資料の確  
認や卒業生への聞き取りを行  
い、何とか書き上げることがで  
きました。随想では、栄養士  
養成課程の前身である「農村  
生活科」も含め、図の通り卒業  
生数をまとめて示しました。令  
和3年度卒業生を含めると、栄  
養士養成課程の卒業生総数は  
1,255人となりました。私は  
はこの図の真ん中頃の卒業生で  
す。糺余曲折を経て今があり、各年  
代の先生方の奮闘と時代背景やその  
当時の学生の気質も様々、と多くの  
事を想像しながらの執筆でした。

鯉淵学園の「学  
校法人化」に向けて、一部の古い建  
造物が昨年の5月  
から6月にかけて  
解体工事が行われ  
ました。昭和10年  
代に建設された旧  
講堂や園芸農場の  
事務所です。



校内施設環境の  
整備が進んでいま  
す。

鯉淵学園の「学  
校法人化」に向け  
て、一部の古い建  
造物が昨年の5月  
から6月にかけて  
解体工事が行われ  
ました。昭和10年  
代に建設された旧  
講堂や園芸農場の  
事務所です。

憶えていりますか？  
古い建物の光景

●写真で紹介



①解体前の旧講堂の外観



②解体前の旧講堂の内部



③解体前の園芸農場事務所の外観

## 【 同窓会県支部・卒期別の活動紹介 】

### 兵庫県支部

同窓生の激励が  
支部だより継続の力に



兵庫県西脇市  
兵庫県支部長  
**福井寛行**  
(26期卒)

本県が支部だより創刊号を発行したのは、平成二十四年一月であり、十年目の令和三年九月に第十六号を発行しました。

発行の動機は、支部活動のマンネリ化に加えて、会員の年齢差、会員意識の希薄化、価値観の違いなどにより、会員同士の親睦・交流をはかる本来の支部活動の目的・意義がなくなりつづあるという危機感からでした。このような支部の状況を見過ごすことができず、支部役員会で組織活動の改革を提案し検討しました結果、改革案の一つが支部だよりの発行でした。

最初は支部活動を会員に知らせ、各分野で活動している同窓生を取材し紹介するという構成で始めました。当初、発行回数は二年に一回程度と考えていましたが、この同窓生取材の企画が意外と好評であつたため、取材先が多くなり、必然的に発行回数も増え、あとの年は年二回発行したことがあります。

令和3年11月1日、大分県別府温泉『美湯の宿両築別邸』で鯉淵学園25期生会が九州で初めて開催されました。2年毎に開催されていましたが、コロナウイルスの影響で一年延期しての開催となり、夫婦での参加を含めて25人の参加でした。コロナの不安や自身の健康状態、また、親の介護等で欠席の通知が多く見られました。

宿は別府の夜景が一望出来る山手のホテル、懇親会はコロナ対策で三密を避けての会となり、最初に学園理事の黒澤賢治君に学園状況を、同、評議員の若林英一君に施設（建物）状況を説明頂きました。小金丸協子さんの乾杯の後、参加者一人一人に近況報告を頂き、その後、ビンゴゲームで楽しみました。

### 25期生会 in 九州大会

大分県 後藤秀一（25期卒）

振り返れば、支部だよりが継続して発行できたのは、同窓生から寄せられた「支部だよりを読んだよ。いつも御苦労様」という温かい感謝の言葉でありました。特に継続発行への心の支えになったのは、令和元年に他界された尊敬する十期加藤整先輩からの励ました。の言葉と、学園の思い出に因る十三回の寄稿でした。同窓生と加藤先輩からの感謝・激励の言葉と寄稿があつたからこそ、第十六号まで継続できました。衷心より御礼を申し上げます。現在、第十七号の企画を思案しています。

25期会は各県持ち回りで、2年毎に開催され、開催県が翌々開催県を決めることとなっています。令和4年は新潟県、令和6年は和歌山県で開催されることが確認されました。また、負担軽減のため一日目計画はしないこととしました。

25期会は各県持ち回りで、2年毎に開催され、開催県が翌々開催県を決めることとなっています。令和4年は新潟県、令和6年は和歌山県で開催されることが確認されました。また、負担軽減のため一日目計画はしないこととしました。



### 同窓会永年会費

平成30年12月～令和4年7月納入者

選	29	29	29	28	28	28	28	28	27	27	27	26	26	25	25	25	25	24	24	23	23	23	23	23	23	21	20	19	19	18	13	10	10	8	8	3										
	浪	浪	入	岩	山	鈴	木	吉	原	佐	千	由	井	川	口	青	木	奥	宮	本	千	由	米	澤	近	藤	弘	道	鬼	武	篠	崎	芳	三	資	利	久	清	木	（神奈川）						
	川	川	江	切	崎	木	木	坂	原	藤	葉	葉	木	木	口	木	木	原	原	木	木	木	木	島	津	北	沢	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島		
	芳	憲	司	三	弥	幸	百合	子	マ	ル	ミ	幸	誠	児	義	徳	久	美	子	隆	一	正	一	常	雄	ゆ	み	こ	正	伸	智	信	和	雄	秀	三	郎	喜	美	男	（茨城）	鹿	児	島	木	（茨城）
	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江			

千	千	茨	兵	長	新	新	茨	宮	富	新	茨	岩	長	茨	島	長	茨	福	北	長	茨	岩	長	高	愛	千	茨	岩	長	高	愛	静	岡	手	手	手	手
葉	葉	城	庫	野	潟	潟	城	城	山	潟	城	手	野	城	根	野	城	島	道	野	道	野	賀	知	葉	城	手	野	島	知	知	岡	手	手	手	手	

## 同窓会永年会費・年会費・寄付金納入者名簿の掲載復活について

同窓会報第92号までは、納入者名簿を領収書代わりとして掲載してきましたが、会員より、①限られた紙面の中で卒業生の活動の様子や学園の動き等の情報をより多く載せてほしい、②名簿の掲載を遠慮したい等のご意見・ご要望がありました。これらのご意見等を受け入れまして、その後の掲載を取り止めてきましたが、その後、多くの会員から納入者名簿は是非掲載して納入啓発等に活かしてほしい旨のご意見・ご要望を賜りましたので、今号から掲載を復活することにいたしましたので、ご理解をお願いいたします。

37 36 36 36 36 36 36 36 36 36 35 35 35 35 35 34 34 34 33 33 33 33 33 33 32 32 32 31 31 31 31 31 31 30 30 30 30 30 29 29

坪野切 小田代 竿富山 高川 坪野  
西久津 三  
荒畠山 関澤木山 柳島小島赤尾岡塩見本馬場大里橋中村本田藤友屋垣中星久原田島水田田高井実子  
長清中福井國野高田板女住本伊根吉木野高大馬場林塩見岡塩見本馬場大里橋中村本田藤友屋垣中星久原田島水田田高井実子  
松崎谷并良保

正司 勉 義徳 直枝 厚子 千穂 友子 令子 善司 賀子 昭治 喜子 俊郎 誠 俊和 明子 典子 健作 博一 史香 浩子 刚士 茂男 淳子 寿美子 映憲 なつ子 真佐恵

福沖富埼群柄福福岩北広山福新茨長新群茨熊靜千埼群柄岩茨茨福宮兵福新茨福岩青兵群茨茨岩長新海島繩山玉馬木島島手道島口井潟城崎潟馬城本岡葉玉馬木手城城島崎庫井潟城島手森庫馬城城手野潟

通 通 通

2 2 2 68 62 62 62 61 61 61 60 59 53 53 52 49 49 46 46 46 45 45 45 44 44 44 43 43 43 43 42 42 41 41 40 40 39 39 38 38 38 37 37 37

和菊久広佐染佐許許山小大池小樋中結宮神伊有定市常坂渡深常松羽水工桑鈴新山濱鴻鈴鈴江芦刀金田池下長島谷藤斐斐家林内田牧渡嶋城城田藤坂政川盤ノ部水盤宮深野藤原木里田嶋巢木木口江補澤上

幸昭 優啓 浩義 寿浩 貴啓 史史 律明 稔昭 宏晃 郁子 ひろみ  
雄治 寛峻 智子 輔子 康彦 己生 子正 江光 子生 昇智 子美 弥子 盛裕 複文 稔辰 弥明 耕美 賽洋 朋廣 朝和 克弘 美穂 秀樹 豊子 節久 郁子

高北京茨愛茨茨大天宮埼宮德茨福京北海沖新千長福茨長茨福鹿兒知道都城媛城城阪阪城玉城島城島都道繩渴葉野井城野城島島野井渴知森渴木繩野阪城岡岡渴本口城

選選 実研  
18 18 18 17 17 17 16 16 16 15 14 14 14 13 13 13 13 13 12 11 11 10 10 10 10 10 8 7 7 5 4 4 3 3 3 3 3 2

鈴木島貫小島原越谷田科野満坂田五十嵐谷山中林上川  
松島貫谷吉庭保水汐高蓮西五真弓村柴加藤奥須唐木平立松野丹瓜廣見川屋藤

君徹富芳耕喜周富一明貞川千克日利重和勇了資健喧良新俊末高節泰治  
杞雄康一東三幸進三郎虎夫豐夫渡枝之幸均夫整夫宏吉右利祐信吉二氾吉未高節泰治

浜野 高橋 升田 池間  
丸田 出店 中田 濱谷 川上 宇田  
梶谷 中田 濱谷 川上 宇田  
安藤 北口 伊藤 勝田 中山  
北口 伊藤 勝田 中山  
河内 野口 横尾 角山  
北郷 中村 細川 島津  
齋藤 田中 大字 段田  
橋本 鈴木 西口 壱岐  
松浦 鈴木 東口 壱岐  
三浦 山本 鈴木 藤原  
高橋 齐藤 安藤

耕平篤文茂徴彦勝信義哲生叡求子昭英力美雄虎義裕保幸子範造春正隆修司雄修一三郎秀三郎裕修一清修一

新	山	岩	山	富	茨	和	福	宮	熊	兵	兵	茨	茨	福	岩	沖	山	新	東	茨	茨	岩	島	島	島	廣	愛	千	茨				
潟	形	手	手	形	山	城	井	崎	本	庫	庫	城	城	島	手	手	口	潟	茨	茨	島	島	島	島	廣	愛	千	葉	城				
R	元年	分	H	30年	R	元年	H	30年	R	元年	H	29年	R	30年	R	元年	H	30年	R	元年	分												
R	元年	分	H	29年	R	2年	H	30年	R	元年	H	30年	R	3年	R	3年	H	30年	R	5年	分												
R	元年	分	H	30年	R	元年	H	30年	R	元年	H	30年	R	3年	R	3年	H	30年	R	5年	分												

選  
46 45 45 45 44 44 43 43 43 42 42 42 41 40 40 38 38 38 37 37 37 37 36 36 35 35 35 35 34 34 33 33 33 33 33 33 33  
神下 井栗若門横浜長那近野香樺北安矢木平加成矢刀千小島山邊小田島井北廣島宇本高野鈴石井藤古  
田新上林宮脇山本崎須本村月口垣藤崎村出藤田向野千葉山邊寺原上原田津木間間  
原芳彦 貞人 武康 良博 昌智美幸之子 次穎祐俊志深信実俊逸真理乃 敦剛直喜敦子正士治伸  
昇盛夫 淳子 康雄 美奈子 宽修二

65 65 64 64 64 63 63 63 62 62 62 62 62 61 61 61 60 60 60 60 58 57 57 56 53 53 53 53 52 52 51 51 51 50 49 49 49 48 48 47 46 46 46 46

通 通 通 通 通 通 通 通 通 通 通 通 通 通 通 通 贊  
5 5 5 5 5 4 4 3 3 3 3 2 2 2 2 1 1 1 1 助 72 72 72 72 72 71 71 71 70 70 69 68 68 68 67 66 65

林音菅米岩秋中吉大持大土久川笛二大寺青山金栗羽田伊米鈴宍木細石佐丸上野澤福宮藤  
居谷内井保鉢川平留澤屋下端口宮田澤木崎子山山中藤山木戸村谷崎藤山野崎畠本真利江  
彦糸初正敏正英元吉正義馨寛勝衛栄男利富要輝恵佳和綾香万里斗仁有美夏帆真緒照國智康弘  
輝治夫一正明司昭穂憲道郎信雄静春長吉郎富要輝恵佳和綾香万里斗仁有美夏帆真緒照國智康弘  
由佳之美子

平成30年12月～令和4年7月納入者

特選  
23 23 23 23 23 22 22 22 22 22 22 22 22 22 21 20 20 20 20 20 20 19 19 19 19 19 19 19 19 18 18 17 17 17 16 16 16 15

佐々木 紘一  
 走出 榮八  
 久保田 義正  
 宮城 平木  
 大城 石田  
 宮里 幸夫  
 腰越 鈴木  
 升田 森谷  
 倉辻 中田  
 東出 新垣  
 田中 高橋  
 奥野 濱谷  
 佐藤 宇田  
 土田 潟谷  
 中山 佐藤  
 菊池 西村  
 広木 横尾  
 小森 高木  
 合志 五十嵐  
 五野寺 室本 江幡

文経 俊子  
 紹吉 保幸  
 康雄 康章  
 文子 洋一  
 勝治 雅子  
 幸洋 學  
 治彦 信  
 一郎 幸輔  
 彬勝子  
 光利彦  
 黜シズノ  
 京子 佐登美  
 文夫 里子  
 郁昇子  
 黙里子  
 佐登美  
 里子  
 勝繁  
 郁夫  
 義正  
 榮八  
 久保田  
 宮城  
 平木  
 大城  
 石田  
 宮里  
 幸夫  
 鈴木  
 森谷  
 中田  
 新垣  
 高橋  
 奥野  
 濱谷  
 宇田  
 土田  
 中山  
 菊池  
 広木  
 横尾  
 小森  
 高木  
 合志  
 五十嵐  
 五野寺 室本 江幡

ゆき子 マツエ 工竹男 良明 博

(秋田) 口(北海道)  
 (北海道) 口(北海道)  
 (北海道) 口(北海道)  
 (北海道) 口(北海道)

## 情報提供のお願い

次の会員は住所不明になっております。

40 39 39 38 38 37 36 35 35 35 34 34 33 33 32 32 32 31 31 31 31 30 30 28 24 24 20 16 15 15 11 7 5 5 4 3 2 2 1  
山崎 東福島 中大森 積竹 小藤館 永井 三浦土代 本田上 沢目山本 山本 奥田 新井 佐藤 新井 香室 早川 村上 伊藤 大水 大沢 中島 森井植田 湯川廣澤 潤田 奥田 北島 中野 末次  
長田 幸祐 一隆 明守 二昭 代彦 君誠 保敏 敬造 文靖 代絹 博牧 仁洋 子正 行実 巧春 幸尚 純子 功常 一良 紀夫 章要 義徳 平要 二和 田正  
平次 隆正 滋賀 大阪 正城 賀

選  
54 54 54 54 53 53 53 52 52 51 51 51 51 50 50 49 49 49 49 48 48 47 45 45 45 44 44 43 43 42 42 42 42 42 41 41 40 40  
古田 北野 毛下 熊谷 戸川 浮須 村上 斉藤 麻佐藤 重倉 佐藤 小酒井 白浜 藤井 姫野 中釜 渡邊 小川 伊藤 富樫 今岡 藤沢 安部 田山 清水 武井 国吉 峯岬 吉本 曾田 千代美 豊見山道江 山下 敏樹 前田 伸里  
古田 北野 毛下 熊谷 戸川 浮須 村上 斎藤 麻佐藤 重倉 佐藤 小酒井 白浜 藤井 姫野 中釜 渡邊 小川 伊藤 富樫 今岡 藤沢 安部 田山 清水 武井 国吉 峯岬 吉本 曾田 千代美 豊見山道江 山下 敏樹 前田 伸里  
雅則 美雪 晃美 隆典 和典 美香 隼人 由美 黙知 雄太 克則 岳夫 唯司 文子 浩勝之 洋子 薫明美 政和 直之 克一 浩幸一 幸弘 美香 窓香 康次 忠司 幸司 忠司 博充 哲哉 澄子 英伸  
雅則 美雪 晃美 隆典 和典 美香 隼人 由美 默知 雄太 克則 岳夫 唯司 文子 浩勝之 洋子 薫明美 政和 直之 克一 浩幸一 幸弘 美香 窓香 康次 忠司 幸司 忠司 博充 哲哉 澄子 英伸  
(鹿児島) 瑠璃 新茨 茨長茨 鳥茨 茨茨 芙茨 芙茨 鹿(神奈川) 北海道(神奈川) 長野 島(神奈川) 東京 千葉 秋田 福井 北海道繩口 (東京) 神奈川 島根 (大阪) 玉城 玉城 田井 城葉 仁堀 仁堀 (沖繩) 玉城 玉城 仁堀 仁堀

今号も各地で活躍する会員の活動を紹介することができました。この中には、他県から嫁いで二人三脚で頑張り抜いて成功した事例があります。若いときの苦労を見近に見てただけに嬉しさに涙が溢れました。

皆さんのが学園で学んだことを糧に、就農したり社会に出てから並々ならぬご努力と研鑽の賜物と頭が下がる思いです。

茨城県 江幡ゆき子（23期卒）

編集後記

卒業後の経過年数	卒 期	金 額
新卒業生～5年	75期～71期	40,000円
6年～10年	70期～66期	37,500円
11年～15年	65期～61期	35,000円
16年～20年	60期～56期	32,500円
21年～25年	55期～51期	30,000円
26年～30年	50期～46期	27,500円
31年～35年	45期～41期	25,000円
36年以上	40期～1期	22,500円

卒業期別永年会費納入表

令和4年3月の新卒業生は75期生です。

昨年は、30期代から50期代の会員に、永年会費の特別徴収を依頼いたしました。

その結果30期代、40期代の皆様から永年会費および寄付金を多數納入していただきました。誠にありがとうございました。

## 同窓会費納入のお願い

#### 会費等払込みの注意点

これまで郵便局で払込する場合は、払込料金は同窓会負担で無料でしたが、本年1月17日から現金で払込する場合は、払込する方が新たに加算料金として110円を負担して頂くことに改定されましたので、ご注意願います。

なお、ゆうちょ口座の通帳またはカードで支払する場合は、加算料金はかかりません。詳細については、郵便局の窓口にお問い合わせ願います。